

建築計画論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築全体の中での「計画」が果たす役割を明確にし、設計に向けての論理的かつ発明的な思考を行うための知見と思考方法を養成する。具体的には、建築計画の史的理解を通して現代に通ずる計画理念を解説した上で、建築過程における計画の位置づけと条件の定義、人体寸法と使用目的に基づく単位空間、住宅や事務所といった特定の課題に対する計画の進め方、計画手法としてのモデル的思考方、空間の知覚、などについて講義する。

■**到達目標**：①建築における「計画」が果たす役割を、史的考察、現代の建築過程における位置づけが理解できていること。
②現代の具体的計画手法を理解し、事例の問題点が指摘できること
③条件の明確な理解と条件に基づいた計画目標の設定、それにふさわしい建築の内容を具体的に計画できる能力が身につけていること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎片山 めぐみ・山田 信博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築計画の位置づけ：建築空間・環境における計画目標／より良い建築のための論理
- 第 2 回 建築計画の史的理解1：デュランによるビルディングタイプ
- 第 3 回 建築計画の史的理解2：機能主義と建築形態
- 第 4 回 建築計画の史的理解3：地域性と建築形態
- 第 5 回 建築計画の史的理解4：日本における計画理論
- 第 6 回 建築計画の史的理解5：プログラム・図式と空間
- 第 7 回 建築過程と建築計画の位置づけ：条件の把握、問題の定義、目標の設定
- 第 8 回 計画事例1：単位空間、単一施設の建築計画
- 第 9 回 計画事例2：複合施設の建築計画1
- 第10回 計画事例3：複合施設の建築計画2
- 第11回 計画手法としてのモデル
- 第12回 形からのアプローチ
- 第13回 知覚からのアプローチ
- 第14回 持続可能な社会のための建築計画
- 第15回 建築計画の史的理解6：アテネ憲章とヴェニス憲章

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。以下の参考文献等を利用するとよい。

■**参考文献**：『建築計画を学ぶ』／建築計画教材研究会編（理工出版）
『設計に活かす建築計画』／内藤和彦・橋本雅好・日色真帆・藤田大輔編著（学芸出版社）
『インテリアデザイン教科書』／インテリアデザイン教科書研究会編著（彰国社）
『20世紀建築の空間 空間計画学入門』／瀬尾文彰（彰国社）
『建築・都市計画のための空間学事典』／日本建築学会編（井上書院）
その他講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業時間内に行う課題（40%）、期末試験（60%）により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	用語の理解と内容の論説	60
小テスト・授業内課題		◎	◎	実際の建築空間における応用が理解できること	40
授業態度		○	○	授業内の課題への積極的な参加	
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：空間デザイン論、デザイン総合実習I、デザイン総合実習II、デザイン総合実習III、住宅論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本講義は、建築図面の基本的読解能力が備わっている事を前提として構成されています。また、履修に当たっては、直感を大切にしながらも論理的な手続きと相対化された評価軸によって建築を考えるために、建築以外の様々な分野の価値基準や評価法を各自で学びながら、本講義を受講する事を望みます。